



酒井はやみ 議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問

「まくべつ学園」開校にあたり、児童生徒が安心できる環境を整えることが重要。「幕別町子どもの権利に関する条例」が生かされ、すべての子どもたちが自分の居場所と感じられる学校づくりをどう進めていくのか伺う。

(1) 5年生から50分授業となり、テストのあり方も検討するとされている。子どもたちに過度な負担とならないよう、どのような配慮や体制で学びを保障していくのか。

(2) 不登校や行き渋りの未然防止、また不登校傾向の子が安心して学べる学校となる体制、困りごとを把握する体制は。

(3) 「幕別町子どもの権利に関する条例」を新しい学校でどのように位置づけ、どのように具体化していくか。

教育長

(1) 令和8年4月に開校するまくべつ学園では、児童生徒の課題解決と教育環境の向上のため、4・3・2制を採用し、小中学校間の円滑

な接続を図る。さらに、中等部での教科担任制拡大や50分授業の実施により学習の定着を図る。テストや学校行事を含めた教育内容について、全教職員が先進校を視察し、共通認識を持ちながら検討を進め、柔軟な対応を意識した運営に取り組むことにより、過度な負担を回避し、子どもたちが安心して学べる環境づくりを目指す。

(2) 不登校については、本人だけでなく学校や家庭、社会状況が複雑に絡んでいるため、教職員との信頼関係構築や相談しやすい学校づくりが重要である。児童生徒のSOSを見逃さず、一人ひとりに寄り添う対応が求められる。まくべつ学園では多くの教職員が児童生徒を見守る体制を整える。さらに、定期的な教育相談や個別面談を実施し、必要に応じてスクールカウンセラーなどを活用し、学校を子どもたちが安心できる居場所とする環境整備に努める。

(3) 町内の小中学校では、毎年パンフレット配布や授業を通じて子ど

問

義務教育学校の開校にあたって

答
開校後の変化の状況を的確にとらえ、柔軟な対応による学校運営に取り組む

な接続を図る。さらに、中等部での教科担任制拡大や50分授業の実施により学習の定着を図る。テストや学校行事を含めた教育内容について、全教職員が先進校を視察し、共通認識を持ちながら検討を進め、柔軟な対応を意識した運営に取り組むことにより、過度な負担を回避し、子どもたちが安心して学べる環境づくりを目指す。

もの権利を学習している。また、掲示板設置や保護者への説明会により周知を図り、教職員には研修を実施し共通理解を深めている。

(2) 学校司書を配置する考えは、

子どもたちがあらゆる機会、あらゆる場所で主体的に読書活動に取り組める環境を整備するとしている。しかし、計画の実現にはまだ改善の余地がある。以下伺う。

(1) 学校図書館の利用率向上に向けた具体策は。

教育長

(1) 町内の小中学校では、児童生徒

の学力向上を目的に読書活動を推進し、朝読書や調べ学習などを学校図書館で実施している。町図書館は、学校からの要請に応じて学校図書館の利用活性化につながる支援に取り組んでいる。今後も支

援を継続し、学校図書館の環境整備に取り組んでいく。

(2) 学校司書は、学校図書館法に基づき図書館運営や利用促進を担う役割が求められ、司書教諭や教員と連携し授業や教育活動の支援も行う。しかし、国の地方財政措置はあるものの町独自で学校司書を配置するには不十分なため、現状では困難である。全国町村会や全国市町村教育委員会連合会は学校

司書配置促進のため財政措置の引

き上げや定数措置を求める要望を

国に提出している。町では各団体を通じ学校司書や司書教諭の専任配置を引き続き要請していく。



幕別町立まくべつ学園

「まくべつ学園」の校章

答	問
学校司書配置に対する財政措置を要請していく	すべての学校に学校司書の配置を置く

問 町の「第4期幕別町子ども読書活動推進計画」では、

教育長

(1) 令和8年4月に開校するまくべつ学園では、児童生徒の課題解決と教育環境の向上のため、4・3・2制を採用し、小中学校間の円滑